

Survival and Predictive Factors in Dialysis Patients with COVID-19 in Japan: A Nationwide Cohort Study

Kikuchi K, Nangaku M, Ryuzaki M, et al Ren Replace Ther. 2021. 7, 59

全文 URL : https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC8529564/pdf/41100_2021_Article_378.pdf

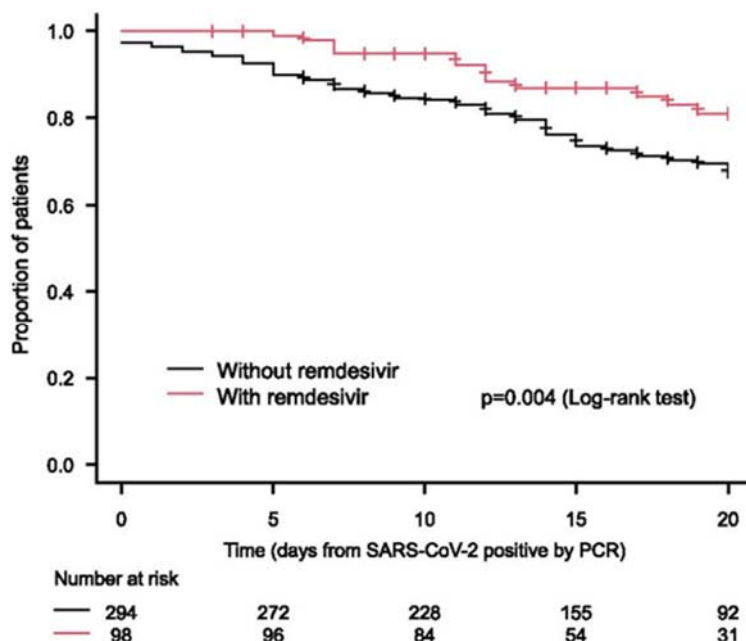
本邦の透析患者におけるレムデシビル投与による生命予後の改善効果

【方法および対象】

本邦の日本透析医会、日本透析医学会および日本腎臓学会より構成された、新型コロナウイルス感染対策合同委員会では、2020年4月8日より日本の透析施設におけるCOVID-19新規感染症例の調査を開始した。このレジストリーを使用して、2020年6月19日(第4波終了)までに登録された1,948人を対象とした。このうち、転帰不明の893人、年齢不明の4人を除く、1,010人を解析の対象とした。

【結果】

レムデシビル投与群と非投与群について、年代と酸素投与(酸素投与の有り無し、人工呼吸器かECMO使用の有り無し)など、重症化や致死率に重要な因子で1:3のプロペンシティブスコア(PS)マッチングを行い、レムデシビル投与群98例と非投与群294例の生存分析を行った。PSマッチング後の患者背景では、年齢、性別、原疾患、透析歴、酸素投与について、両群に有意差のない集団であった。レムデシビル投与群と非投与群でのKaplan-Meier生存曲線を記載、Log-Rank検定を行った(図)。レムデシビル投与群と非投与群の生命予後は $P=0.004$ と有意にレムデシビル投与群の生命予後が良かった。また、PSマッチング後のCox回帰分析では、レムデシビル非投与群を比較対照とした投与群のHRは $0.45(95\%CI:0.26-0.80)$ と、レムデシビル投与による生命予後の改善効果が示された。また、レムデシビル投与群と非投与群で入院後から改善までの期間を比較すると、投与群は 20.9 ± 13.2 日、非投与群は 16.2 ± 8.1 日、平均差4.7日($95\%CI: 2.2-7.4$)、 $P<0.001$ と、レムデシビル投与群では入院期間が有意に短縮された。



要約作成者のコメント:

レムデシビルの添付文書では eGFR<30ml/min/1.73m² の患者へのレムデシビル投与は慎重投与となっており、透析患者への使用は躊躇されていました。しかし、Aiswarya Dらは COVID-19 透析患者 48 人を対象に、レムデシビルの安全性と忍容性を評価しました¹⁾。透析日の透析 4 時間前に 100 mgを投与する投与方法で、入院 48 時間以内に投与した群で、入院期間が平均 5.5 日(P=0.001)短縮され、安全に使用できることを報告しています。この論文の報告により、透析患者でも安全に投与できる方法が確立され、透析患者でのレムデシビルによる治療が増加しました。しかし、生命予後に対するベネフィットは示されていませんでした。今回の論文により透析患者の入院期間だけでなく、生命予後が改善することが明らかとなりました。早期のレムデシビル投与により、透析患者の生命予後の改善が期待されます。

引用文献:

1. Aiswarya D, Arumugam V, Dineshkumar T, et al. Use of Remdesivir in Patients With COVID-19 on Hemodialysis: A Study of Safety and Tolerance. *Kidney Int Rep.* 2021; 6(3): 586-593.

要約作成者: 下落合クリニック 菊地 勘